

学校名	新座市立大和田小学校
実施日	2023年1月17日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	私は、自己有用感の高い学校づくりに取り組んでいる。	B	・帰りの会に「ありがとうタイム」や「今日のヒーロー」など児童同士の認め合いの場を設けたり、児童の望ましい姿が観られたときにかかざす褒めている。 ・保護者と個人面談や電話、連絡帳等で、学校と家庭で児童の良さを共有している。 ・児童が自ら揚げた「めあて」を見えるところに掲示・振り返りを適宜行い、PDCAのサイクルで取り組ませる。前向きな評価を積み重ねている。	A	・児童の主體的な取組に対し、細かく評価し個々の児童に自信を持たせていた。特に仲良し学級では毎週、1対1対応などで自己有用感を持たせる場面を多く見ることができた。それが他の児童への良い影響となっていた。大変でも個々によって違う良い点を認め、評価してほしい。 ・掲示板の設置で作品等が掲示しやすくなり、児童間での関心・意欲を高めていた。 ・小さなことでも、評価されていることから自信をつけ、意欲的になった児童が多く見られた。
2	私は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。	B	・身に付けさせたい力を教師の中ではっきりと決めてから授業構成を行い、実践する。実践したことを、情報交換することで、教員の授業力を総合的に高めていく。 ・主体的に学習に取り組めるよう、気付け、発見する、イメージ化する、共感的に理解する、表現する、深化するなどの内的な動機付けを重視した授業を展開する。	A	・ゴールを明確にすることや、児童同士の情報の共有で、学習意欲を高める授業を進められていた。その結果全体のレベルアップに繋がっていた。 ・学校全体で取り組んでいる様子が分かり、学年、学校内で授業改善しやすい環境となっていた。
3	私は、児童の『自分から』を大事にした主体的・協働的な教育活動に取り組んでいる。	B	・学級会やたてわり活動など、児童が主体的・協働的に活躍できる場をできる限り提供していく。うまくいったときには、具体的に褒めて価値づけを図り、次につながるように支援する。 ・6年生は卒業までの主な行事を学年の廊下に掲示し、「自分から」気づき、考え、行動できるような素地を培う。	A	・学校行事、縦割り活動などの機会が昨年度よりも増え、高学年が低学年の為に動く姿が見られた。低学年にとっても上級生を敬う姿がみられた。互いに良い影響になっていた。 ・児童が進んで活躍できる機会が増え、自分から取り組む姿が多く見られた。コロナ以前に戻ることを期待したい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	B	・学年主任、副主任を年度当初に決めて、学年の仕事なるべく均等化を図るとともに、主任の負担を軽減できるよう努めている。 ・アンケートをとる場合は、タブレットのソフトをできる限り利用して、アンケートの作成・集計を行い、業務の効率化を図っている。 ・会議のペーパーレス化を図り、実践している。	A	・主任を中心に学年内で仕事を分担し、情報を共有しながら仕事を進めていた。よく学年内で話し合っている様子が見られた。 ・一部の先生に負担が集中しないよう、事務の均等化などに取り組み、更なる働き方改革を進めていって欲しい。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて改善計画を考え、学校経営を行っている。	B	・何トラブルが起こったら、まずは学年主任へ報告、連絡、相談。その後管理職への報告、連絡、相談の手順を踏むように努めている。 ・組織改善委員会を機能させ、教育活動全般の諸課題について学年から出されたものを話し合い、PDCAサイクルで次年度へ向けて改善を図っている。	A	・日常的によく情報を共有し、トラブルが発生しても手順に沿って対応している。 ・組織改善委員会が機能していて、学校行事等の改善点を適宜調整しながら進めている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・危機管理マニュアルに沿った避難訓練や不審者対応を実施し、警察の指導のもと、マニュアルの見直しや共通行動の確認をしている。 ・緊急時の対応について、教師の指示を待つのではなく、「児童自身が考える」大切さについても児童に伝えていく。	A	・警察と連携し、不審者を想定した訓練、通学路での安全対策など、適宜対応している。 ・爆弾予告など、想定外の事案にも対応できるような体制づくりを進めてもらいたい。 ・地震に対する訓練マニュアルの見直しなど、今後の改善を継続していただきたい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	・毎週木曜日に行っている復習タイムでは、ソフトのAI機能を使い、個別最適化された学習を行っている。 ・「大和田小のきまり」を軸に、学習規律については、複数の目で確認するとともに、見逃さず声かけをしたり、できている児童を評価し意欲付けしたり、繰り返し指導をしている。	A	・復習タイムや繰り返し指導により着実に成果を上げている。 ・AI機能を使った個別指導に児童も慣れてきている。復習場面では、なぜ間違ったのかその内容を良く理解し、単に答えを暗記するだけに終わらないような工夫がほしい。
8	各教科の指導において「見方・考え方」を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	・校内研修とリンクさせ、児童が自分の意見を表現したり、伝えたり、相手の意見をしっかり聴いたりして、自分の考えを深化させていくことに主眼を置いて指導している。 ・教材研究を充実させ、思考力・判断力・表現力等が育成できるように、ICTを適宜活用しながら、交流活動や言語活動など様々な活動授業に取り入れている。	A	・ロイロノートを活用し、自分の意見や相手の意見を互いに共有し、理解を深めている。各教科の指導において、工夫を凝らし、さまざまな手法を用いて実践し、効果を上げている。 ・これからの時代に必要な知識・技能を身に着ける指導がされている。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	・学習指導要領や編成要領、指導の手引きに記述されている各教科で育むべき資質・能力を、年間指導計画に則りながら指導している。 ・高学年の教科担任制や専科を十分に活用し、児童1人1人の学習状況の把握を複数の教員で共有し、学習の理解を下支えしている。	A	・文科省や県の手引きに沿った年間指導計画を作成し、それに基づいた指導がされている。 ・高学年の教科担任制は、児童の間でも定着し、効率よく授業が展開されている。経験による指導力の差も解消されていると感じる。
10	カリキュラムマネジメントを推進しsociety5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	・必要な情報だけを調べるためにだけにパソコンを利用するだけでなく、調べたものをプレゼンテーションソフトを使ってまとめて発表したり、電子ノートソフトを使い、他の子のまとめたものを意図的に共有化させ、児童が自由に閲覧し、自らの考えを広げ深められるよう、授業を工夫して展開している。	A	・タブレットを使った学習が身に付いてきている。まとめる力、発表する力などに表れていた。 ・ロイロノートの活用によって少数派の意見もピックアップされ、自己有用観にも繋がっていた。 ・正確に読み取る力、思考力の向上、探究心など文科省の提言に沿った活用がされていた。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・教師が自ら言葉遣いの模範となるように、日頃から丁寧な言葉遣いで教師同士で話したり、児童に接するように努めている。 ・コロナ禍のなかでも、あいさつ運動を代表委員が率先して行い、あいさつの輪が広がっている。更に効果的をあげるように、継続指導する。	A	・挨拶は人より先に自分からするようになっている。学校の雰囲気も明るく感じる。 ・挨拶運動の時に比較的好くできていた。 ・校内では先生方が来校者に対してよく挨拶されていた。防犯にも繋がるので、これからも継続していただきたい。 ・普段の言葉づかいで、一部気になる時もあったので、継続して指導して頂きたい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・学級全体で認め合う言葉を増やし、あたたかい学級づくりを行っている。支持的風土のある学級となるよう、間違った発言もしっかりと受け止めるとともに、頑張った発言した事実を誉め、価値づけている。 ・生徒指導上の課題など、「何が起きて」「どのような方針をとるのか」を生徒指導部を中心に情報共有し、学校全体で組織的に環境整備を進めている。	A	・互いの良いところや頑張りを認め合う雰囲気が校内に広がっているように感じる。これからも、学校全体で認め合う言葉を発することは、児童間の信頼関係醸成にも効果的である。 ・先生の経験によって対応の仕方に違いが見られた。ある程度の基準や情報共有が必要であると感じた。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・年度当初に確認したきまりやルールを、適宜確認したり、定期的に振り返りする機会を持ち、共通理解、共通行動をとり、意識向上を図っている。 ・全校朝会の校長講話や帰りの会などに、よい行いを認め、褒めたり、紹介したりする機会を意図的につくり、児童の規範意識を高めている。	A	・学校全体できまりやルールを守る体制が確立されている。 ・先生方の挨拶はよくできていて、児童のお手本となっている。 ・先生同士も互いに良い点を認め合い、評価し合う職場の雰囲気を醸成して欲しい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・体力テストの結果を職員室前の掲示板上に掲示し、児童の意欲喚起に努めた。 ・6年生は12月に体育の時間に「埼玉の子供70万人体験活動」で高校生とサッカーの交流活動を行ってサッカーへの興味・関心を高めた。 ・コロナ禍で様々な制約があるが、体力向上委員会を中心に、体育授業の質を全体で向上させるように努めている。	A	・市内駅伝大会の参加は、児童の意欲を高めるのに効果があると感じた。休日にもかかわらず多くの先生方が応援に来てくださった。他の競技でも連携できると有り難いと感じた。 ・高校生との交流はとても楽しめていたようだ。 ・全国的に体力が低下傾向にある中、体力向上の取組は心身の発達に不可欠である。体力向上委員会に今後も期待している。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	・調理員さんへの感謝の気持ちを大切にしながら、時間内に完食できるように指導を継続している。 ・地産地消に関する給食便りの発行や、日本各地の郷土料理の提供、給食のときの校内放送など工夫をこらし、児童の食に関する関心を高めた。	A	・校内放送により食材や食べ物への興味を高める工夫がされていて良い。 ・食生活の変化が出ている時代なので、新しい食文化へ関心が高められるような取組も必要になってくると思われる。 ・コロナによる制限もあるが、調理員さんへの感謝の気持ちを伝える企画などを一層進めていただきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	・電話や手紙などで保護者や地域から学校へ寄せられた意見に対しては、管理職を中心に具体的に、適切に対応できるよう、今後も努めていく。 ・一個人で対応するのではなく、全職員が共通理解・共通行動を心がけ、組織で対応するように努めている。	B	・保護者や地域の方からの意見に対して、組織的に対応する体制が整っている。管理職との情報共有がされている。外部との相談もよくできていた。 ・職員によっては認識が異なる場面があったので、共通理解、共通認識の一致を心掛けて欲しい。学校としての対応の仕方に関する基準があると良いのではないかと感じた。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・学校だよりによる定期的な情報提供とともに、コンピュータ業務補助員と連携し、学校行事に係る児童の普段の様子を、こまめにホームページで情報提供することができた。 ・スクールメールでコロナに関する情報を逐一保護者へ提供した。	A	・ホームページの更新、学校だよりの回覧など、保護者・地域への情報提供などによく努めていた。スクールメールも有効に活用されていた。 ・ホームページにいろいろな情報が載っていることを知らない保護者が多いので、学校だよりなどで周知すると良いと感じた。もったいないと感じた。

18	コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	B <ul style="list-style-type: none"> ・花植え水やりボランティアなどに加え、コロナで制約を受けていた農園での手伝い、ミシン学習でのサポート等PTAや地域の方との活動も徐々に再開した。 ・読み聞かせは対面だけでなく、オンラインによる実施も取り入れている。 ・学校応援団の意義や構成メンバーなど、職員が理解を深め、より効果的に連携していく。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・花植え、水やり、学校農園の管理などのボランティア活動など、教職員とも連携して実施されていた。できる範囲内でよく実施されていた。 ・読み聞かせでは父親の参加や、オンデマンド方式などを取り入れて充実されている。 ・一部連携が上手くできなかったことがあったので、情報共有の仕方や指示系統の統一など改善を図ると良いと感じた。
----	---	--	--